

## 平成30年度学校経営構想

### はじめに ― 学校経営方針等の策定にあたり ―

#### □ 時代の流れと新学習指導要領

グローバル化の進展などにより世界全体が急速に変化する中であって、知識基盤社会への移行が加速度的に進んでいる。日本では、少子高齢化による労働人口の減少、人間関係の希薄化等の社会の変化により、先を見通すことが困難な時代を迎えている。

未来社会を生きていく子どもたちには、生涯にわたって諸課題に主体的に向き合い、高い志や人に対する優しさを持つ自立した人間として、幸福な人生を自らの力で切り拓いていくとともに、他者と協働しながらよりよい社会を創り上げていくことが求められる。

そのような中、学校教育においては新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、多様性を基調とする3つの理念「自立、協働、創造」の実現に向けた生涯学習社会の構築を見据え、家庭・地域社会・関係諸機関との連携を一層強化し、「生きる力」の確実な育成を図ることが重要となる。

また、学校には、新学習指導要領の三年後の完全実施を見据えて、「社会に開かれた教育課程」の創造を保護者、地域とともに計画的に進めることが求められている。その際、「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の実現も求められている。

#### □ 本校学区の状況と生徒の実態

学区は、旧東海道見附の宿を中心に南北に広がり、商店街、住宅地、農地や工場など様々な様相を呈し、伝統的な文化が地域に深く根付いている。日本最古の洋風木造校舎、旧見付学校が学区の中心にあり、昔から人々の教育への熱い思いを伝え、現在も学校教育に対する関心や期待は大きく、教育活動に理解があり協力的である。

生徒は、学習意欲が旺盛で授業に集中し、良好な学習習慣がほぼ身に付いており、反社会的な行動はほとんど見られない。学校行事や部活動にも積極的に取り組み、学習と部活動の両立ができている生徒は多く、城山中学校のよき伝統を継承しようとする姿が多く見受けられる。

一方、内面的な課題を持つ生徒も少なくなく、家庭環境の変化等に起因する子供の心の不安定さや精神的な弱さが人間関係を築く力の発達に影響を与えており、非社会的傾向、不登校や適応障害等として表面化している。また、授業や諸活動に誠実に取り組み、社会奉仕的活動への意識の高さはあるものの、自ら考え、判断し、行動しようとする主体性に欠ける面が見受けられる。

#### □ 本校の校訓 「強く 正しく 明るく 行う」

建学の精神として、脈々と受け継がれてきた本校の校訓「強く 正しく 明るく 行う」は、具体的であり、かつ実践的である。校歌の三番には「強く正しくひとすじに、まことの道をきわむるところ」ともある。校訓には、時を超えて変わらぬ人としての在り方を示す不易の理念が含まれ、これからの厳しい挑戦の時代にこそ忘れてはならない生き方の指針となる姿がある。

これからも校訓の精神、伝統を受け継ぎ、新たな時代の新たな校風の樹立とさらなる発展を図りつつ、城山中学校の使命を果たしていく。

## □ 地域とともにある学校

平成 26 年度から、それ以前の「学校協議会」を基盤とする、地教行法 47 条に基づく学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置している。学校運営協議会の下には、4 部会からなる「よつばプロジェクト部会」（学校づくり部会、学びづくり部会、まちづくり部会、人づくり部会）があり、地域と連携・協力した取組を積極的に展開している。

今後「社会に開かれた教育課程」を実現するうえで大きな役割を担うこととなる「学校運営協議会」と「よつばプロジェクト」の位置づけをより実践的なものとして確立し、地域とともにある学校づくりを具体的に推進したい。

## □ よつば学府（小中一貫教育）

平成 28 年度から、子供の実態や時代の要請に鑑みて、次の二つの機軸を設け、磐田北小学校、富士見小学校と共によつば学府教育に本格的に取り組み始めた。

- ◇ よつばの理念に向かう、自己及び他者への信頼構築
- ◇ 深い学びによる資質・能力の育成

この機軸にある「よつばの理念」とは、本校の校章「四つ葉」に込められた先達の二つの思いのうちの一つ、子供、教師、家庭、社会の四者、あるいは生徒同士の教育を営むうえでの大切な関係を意味する。今一つは、社会生活において生徒に期待する姿（自立、協働、一体感）であり、学校行事等を通してその具現に努める。

- 1 生徒、教師、家庭、社会が、あるいは生徒一人一人と生徒全体が、協同一体となり愛によって結ばれている姿… <信頼の絆>
- 2 一枚の葉が独立して自主的に生活している姿であり、四枚の葉がしっかり結ばれあって一体となり、社会的に協同的に生活している姿 …<自立、協働、一体感>

本学府では、機軸の実現のための基盤づくりとして、「信頼を築く対話」並びに「学びを深める対話」の力を磨く「対話活動」（コミュ・トレ）に取り組んでいる。

子供の実態を踏まえ、対話活動（コミュ・トレ）の取組を通して、子供たちは自他の理解を深めながら、「信頼を築く対話」の在り方を体験的に学び、併せて話す、聴く力を高めている。

対話活動（コミュ・トレ）は、人間関係形成能力、コミュニケーション能力という社会生活を営む上での大切な資質・能力の育成につながるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の基盤となるものである。

平成 29 年度は引き続き、対話活動（コミュ・トレ）に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善の視点を踏まえ、学んだ後に「何ができるようになるのか」を明確にした単元や題材を貫く“問い”や、その解決のための思考を支える教科等の特質に応じた“見方・考え方”への理解を深める研修を進めてきた。次年度も9か年にわたる学府一貫教育の学びを見通しながら、発達段階に応じた各教科等の“見方・考え方”への理解を一層深めていきたい。

また、平成 30 年度は3年間をスパンとする第Ⅰ期の終了にあたり、施設分離型一貫教育の在り方を模索する中で、第Ⅱ期、第Ⅲ期の構想を練り、学校間での「カリキュラム・マネジメント」等を推進していきたい。

以上を踏まえ、平成 30 年度を次のとおり位置づけ、学校経営を推進する。

## □ 平成 30 年度への思い （平成 30 年度の位置づけ）

国際情勢が不安定感を増す中で、東京オリンピック・パラリンピックに向けて大きく国内社会が動きだしていく時、新学習指導要領完全実施に向けて教育も大きく変わろうとしている。新学習指導要領完全実施までの3年間で、新たなステージへ飛躍する準備を計画的に進め、学区に住む子供たちを将来にわたって幸せにすることのできる地域に根ざした学校、地域とともにある学校づくりを進めたい。

平成 30 年度は、今まで脈々と引き継がれ形作られてきた教育課程を大きく変えるということではなく、運営する中でもう一度原点に戻り教育課程を問い直し、整えて新たな「社会に開かれた教育課程」を全職員で組織をあげて模索する 1 年と位置付ける。

そこで、経営スローガンを『“整頓（整える）・発信（見える化）” による「社会に開かれた教育課程」の模索』とし、学校に関わるもの・こと・環境・教育計画を整え（整頓）、学校の思いや活動をできる限り見える化（発信）することを試みる。また、「整頓（整える）・発信（見える化）」際に、大切にしたいキーワード（視点）を5つ挙げて取り組むこととする。

### ■ 経営スローガン （整え、見える化する）

“整頓（整える）・発信（見える化）” による「社会に開かれた教育課程」の模索

※「整頓」・・・もの・こと・環境・教育計画等すべてを整える。

※「発信」・・・教育活動・指導・出来事・学校の思い等を見える化する。

### ■ 「整え、見える化する」上で大切にしたい5つのキーワード（視点）

- i **気品・品格**（城山中生の誇り） → 伝統の力の具現
  - ・今まで大切にしてきたもの、培ってきたものをより鮮明に具体的にする。
  - ・城山中生としての誇りを生徒が具体的に語れるようにする。
- ii **対話**（人間関係形成能力・コミュニケーション能力） → 社会適応力の向上
  - ・対話を始めた意味を再確認し、よつば学府ならではの対話活動に発展させる。
  - ・信頼の構築、深い学びへの具体的に手段化・活用し検証する。
- iii **自己選択**（自己決定・自治活動） → 教師主導から子供主導への更なる転換
  - ・子供自身が自ら選択することや場を増やしメタ認知できる機会を設定する。
  - ・子供が力を発揮する、子供に任せる場と時間を意図的に設定する。
- iv **社会・地域**（社会貢献・ボランティア） → 四つ葉の理念の継承
  - ・子供が、社会、地域との関わり、つながりを意識しながら学び成長する。
  - ・よつばプロジェクト（地域の教育力）の活用と地域貢献活動を推進する。
- v **働き方**（働き方改革） → 働き方の意識改革
  - ・組織的なマニュアルの作成等、長いスパンで業務の効率化を図る。
  - ・日常と非日常の区別による業務のスケジュール管理を進める。

平成 31 年度は、“整頓（整える）・発信（見える化）” により浮かび上がったものをベースに、「再構築」をスローガンに運営する中で新たな形を模索し、質を高めながら土台をつくり、新学習指導要領実施につなげる。 「再構築」

平成 32 年度は、「再構築」した土台づくりをもとに、小学校の完全実施を受け、小中のつながりをより意識する中で「社会に開かれた教育課程」を創りだす。 「創造」

## 1 学校経営方針（めざす学校像）

子供たちが、よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓く“未来の創り手”となるよう、地域とともに“よつばプロジェクト”と学府教育（小中一貫教育）を推進し、誇りと志をもてる学校（学校文化・風土）を創造する。

## 2 学校教育目標

### （1）学校教育目標

志を持ち、自己実現をめざす生徒  
～ よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓く“未来の創り手”の育成に向けて ～

### （2）求める生徒の姿（めざす生徒像）

- 強く     しなやかな心の強さを持ち、課題解決に粘り強く取り組む姿
- 正しく   温かな心を持ち、お互いを尊重する姿
- 明るく   目を合わせ、笑顔であいさつを交わす姿
- 行う     自ら目標を持ち、進んで心身を鍛える姿

## 3 経営目標（今年度重点的に取り組むこと）

“整頓（整える）・発信（見える化）”による「社会に開かれた教育課程」の模索

- （1）「信頼を築き、学びを深める対話」を活用した新学習指導要領が求める授業づくりの推進
- （2）特別支援教育の充実といじめ・不登校等悩みを抱える生徒への組織的な教育支援の充実
- （3）コミュニティ・スクール（よつばプロジェクト）を機能させたよつば学府教育（施設分離型の小中一貫教育）の推進と進化
- （4）地域とともに規律と規範、感動と気品あふれる学校文化の創造
- （5）日本型学校教育の良さを意識した働き方改革の推進

## 4 運営方針（経営目標を受けての具体的な取り組み）

- （1）環境や教育活動等すべてを「整頓・発信」で問い直した取り組みの推進及び実践の蓄積
- （2）新学習指導要領の趣旨と教科・領域等の理解及び特別な教科「道徳」への対応
- （3）よつば学府教育構想を意識した対話活動（コミュ・トレ）等の共通実践の充実
- （4）「主体的、対話的な深い学び」に迫る、単元・題材のデザイン力を高める学府研修と校内研修の推進
- （5）施設分離型の小中一貫教育をめざしたよつば学府教育の9か年(Ⅲ期)計画の立案
- （6）コミュニティ・スクールとよつばプロジェクトの関係を明確化した中での4部会による地域と連携・協働した教育活動の推進
- （7）特別支援学級5学級運営への準備と学府における就学支援体制の連携・充実
- （8）保健室登校の受け入れ及びサポート教室運営改善等による組織的な教育支援の充実
- （9）多様な個性の尊重と受容、安心感・信頼感を高める教育環境づくりの推進
- （10）規律と規範、感動と気品を創り出す生徒主体の自治的な活動の拡大推進
- （11）生活・交通・災害安全への意識高揚と危険予知・回避力を向上させる安全教育の充実

- (12) 部活動や学年経営等における組織的な働き方改革による教職員の心身の健康維持と本人、家族の幸福追求

## 5 目標達成のための数値目標（磐田市の目標指標）

- (1) 「授業の内容がよくわかる」と答える生徒の割合 (83%)
- (2) 「進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している」と答える生徒の割合 (70%)
- (3) 「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合 (87%)
- (4) 「私たちの学級（学校）は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」と答える生徒の割合 (80%)
- (5) 「学校が楽しい」と答える生徒の割合 (90%)
- (6) 「学校で目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている」と答える保護者の割合 (80%)
- (7) 「先生は子供のことを理解して指導にあたっている」と答える保護者の割合 (83%)

## 6 勤務環境改善

- (1) タイムカード及び部活動申請により、勤務実態の把握をする。部活動については、部活動ガイドライン及び磐周の配慮事項との乖離状況を把握する。
- (2) 個々の分掌業務において、「来年の今日をつくる」ことを呼びかけ、業務の進め方を1年かけてマニュアル化し、次年度の校務を整理する。
- (3) 時間外勤務 80 時間（過労死ライン）までの時間の使い方を意識することで、スケジュールを管理する力（段取り力）を高め、教職員の意識改革を進める。
- (4) 既存のよつばプロジェクト（地域との連携）を発展させ、保護者・地域等との協働等をより進めるとともに、製本機能付き印刷機の導入等のハード面の整備を行う。

## 7 めざす職員像（めざす職員集団）

～ 城山スピリッツ（職員心得） ～

- 〈1〉 自己研鑽・自己管理に努め、明日の自分づくりに励みます。
- 〈2〉 子供の声や表れに「心」をのせて指導します。
- 〈3〉 今日を、来年の今日につなげます。
- 〈4〉 5年後の教育を考えて、今を判断します。
- 〈5〉 チーム&ファミリーで、一人をみんなで支えます。

※ 組織風土を醸成するために、城山スピリッツ（職員心得）をもって取り組む。

## 8 学校経営構想図

以上の経営を次頁に学校経営構想図としてまとめ示す。